

1. 研究課題名：侵略的外来中型哺乳類の効果的・効率的な防除技術の開発に関する研究

2. 研究代表者氏名及び所属：小倉 剛（琉球大学農学部）



3. 研究実施期間：平成21～23 年度

4. 研究の趣旨・概要

環境省や自治体による外来種ジャワマングースとアライグマの防除事業へ開発した技術を直接反映させる目的で、1) 低密度になった個体の生息場所を高い精度で確認・検出する、2) 生息場所を特定した個体を在来種に影響を与えずに完全に排除する、3) 効果的に低い労力で探索・捕獲をおこなう、これらの技術を開発する。

特にジャワマングースでは、誘引物質、駆除剤、在来齧歯類の混獲防止手法、個体識別法等の開発を行うとともに、複数の探索技術の開発とそれらの特性把握を行い、低密度個体群を効果的に検出するシステムを確立し、これらを防除事業に提供する。

またアライグマでは、探索犬、繁殖期にも応用可能な巣箱型ワナ、デビルトラップのアライグマ用への改良、妊娠メスの捕獲手法、捕獲作業量の低減のための遠隔地捕獲状況把握システムなどの開発を行う。

以上の、行政ニーズが高い新たな技術を開発し、これらを防除の進捗に応じて特に現在の低密度個体群の排除段階にある、環境省や自治体が取り組む防除事業に直接応用することによって、特定外来生物の環境からの完全な排除が期待でき、捕食圧を受けてきた在来種の回復、これらの種で構成される元来の生態系への回復が促進される。

5. 研究項目及び体制

- ① ジャワマングースの捕獲・駆除技術と在来種の混獲防止技術の開発（琉球大学、八千代エンジニアリング）
- ② ジャワマングース根絶のための探索技術開発と捕獲効果検定手法の開発（森林総合研究所）
- ③ 低密度状況下でのアライグマ探索・捕獲技術の開発（北海道大学、酪農学園大学など）
- ④ 簡便・安価で衛生的なアライグマ捕獲手法の開発（日本獣医生命科学大学）

6. 研究のイメージ



ジャワマンゴース・アライグマ 防除のための技術開発スキーム

このプロジェクトでは、ジャワマンゴースとアライグマの防除事業に直接反映できる技術開発を、これまでの技術開発の実績、良好な研究・開発遂行環境、外来種国際シンポ（CSIAM2008）による人的ネットワークを礎に、種間・サブテーマ間の連携を図りながら、3年後の実用化を目指して実施します。